

第四回日中友好山梨県訪中

青年の翼に参加して

上谷六丁目 下川 晴江



私は、五月二十日から六月一日まで、望月幸明知事を団長とする六十六名の県訪中団の一団員として中国を訪れました。

を視察しましたが、山梨県の青年代表として、また、日本の代表としての訪中だけに中国側も行き届いた歓迎ぶりをみせてくれ、産業文化、教育等各般について、この目で確かめ、肌で感じとれたことと同時に中国関係者との対話を通じて、日本を理解して頂いたことなど訪中の成果は十分挙げることができたと思います。

限られたハードスケジュールなかで新生中国を知る事は無理であり、私は中国の極く一部分を見たにすぎないかもしれない。しかし、私が接した中国の人々から、あるいはその組織や体制、またその広大な大地から、限らない発展性とその秘めた力の一端に触れた思いでありました。二十一世紀は世界最強の社会主義国、中国の世紀になるのではないかというのが私の実感でした。

く広がらせ、悠々と燃え続けさせるために努力したいと思っています。今回、研修、親善交流等を行うてきたなかで中国文明、いや東洋文明の源を胸に深く刻みこむ機会を得たことは私にとって生涯忘れ得ぬ思い出です。今後も多くの日本青年が中国の青年達との交流を

テネシー文化使節団

市民の歓迎に感激

八日から三日間、米国テネシー文化使節団（ランディ・スミス団長）一行四十一名が当市を親善訪問しました。八日歓迎レセプションの後、市民会館において演奏会を行い、舞台と客席とが一つになる素晴らしい内容でした。その夜はグリーンロッジに宿泊、翌日宝山寮で交歓会。国際障害者年でもあり予定を変更し、全員参加のふれあいの場となりました。市内及び富士山五合目の観光の後、市民のお宅に分散して宿泊し、交流を深

めしました。ホームステイの方々の心のもった接待をはじめ、市民の暖かい歓迎に感激し、再び当市を訪れたいと語っていました。この文化使節団は、テネシー州ヘンダーソンビル市を中心とした一般の人達で、医者・教師・弁護士・主婦・学生等で構成され、前回のメンバーが十名ほどおりました。ヘンダーソンビル市は、テネシー州の州都ナッシュビル市から車で約四十五分の所にある人口二万六千人の小都市で、いくつもの湖にかこまれた静かな市として有名であり、詩人や画家音楽家などが多く住んでいる所です。当市では、ヘンダーソンビル市との姉妹都市締結に前向きに取り組んでおります。



ふるさとカレンダー

八月 写真説明

大宰府天神社の彫刻

境天満宮の彫刻は、境の豪農天野開三翁の招きに応じた、伊豆の江奈村（現在の松崎町）の彫刻師小沢半兵衛とその息子福田藤右衛門（俊秀）が江戸末期に、天野家の一室で長期にわたり彫工したものです。俊秀の家系は、代々小沢流と呼ばれる彫工の名門で、長男

俊秀は境入村以来、親交の厚かった上谷の福田家の一人娘と縁あって結ばれ、福田姓を名乗りました。俊秀は信仰心の篤い人で、東山梨郡三富村の大嶽山那賀都神社を深く崇拝し、二十余年にわたり参籠しながら、彫工に専念しました。大正七年、七十九歳で俊秀は他界しましたが、彼が情熱を傾注した作品は現在も県内外に多数現存されています。



通訳を交えてホームステイと歓談